

GREEN RANGER NEWS

2014年3月号

Vol.252



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局
〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字滝下102
Tel & Fax 0224-25-3820
URL <http://www.zao.org/>
e-mail mail@zao.org

■ 3月の活動報告

[定例会]3月9日

7人の参加者が集まり、苗畑でミズナラの苗200本余りの根回しをしました。午後の作業のため、5人で作業小屋に向かいましたが、1m以上の積雪があり、小屋には入れませんでした。こけし村の駐車場で昼食をとり、館内を見学し、ここで解散しました。動物の足跡を観察する絶好のチャンスなので、その後2人が植林地に戻りました。雪に覆われた植林地では、ノウサギ、キツネ、リス、アナグマの足跡を確認できました。リスの足跡を追跡し、ついにカラマツの樹上にあった巣を2つ見つけました。巣は以外に低い場所にありました。アナグマは70~80cmほどに積った雪の上まで穴を掘り上げていて、その周りには足跡がたくさんありました。天気良かったので、歩くには快適な日でした。来年は、スノーシューとメイプル液の採取を行いたいと思います。

■ 4月の活動案内

[日帰り研修旅行]

開催日 4月6日(日)

集合 場所のわからない方、JR利用の方 9:30 JR東北本線岩切駅
(仙台発9時16分松島行きに乗れば、9時24分に岩切駅に到着します。)
自力で来られる方 10:00 宮城県民の森中央記念館駐車場

場所 午前：宮城県民の森 MISAWA オーナーの森 イオンの森
午後：台原森林公園

内容 自然観察路に設置する案内板の調査を兼ねての自然観察

※岩切駅から乗り合わせの都合があるので、必ず申し込みをお願いします。

申込・問合せ先:090-2605-1990 森山

e-mail: moriyama@am.wakwak.com

[定例会]

開催日 4月13日(日)

集合 場所のわからない方、JR利用の方 9:30白石市役所駐車場
自力で来られる方 10:00 苗畑(深谷)

内容 植林 ツリーハウス作り ブナの種まき 巣箱設置

[森の教室]

開催日 4月27日(日)

集合 作業小屋(丸太小屋) 10:00

内容 植林 植物調査

・ 2ページ①は、前号に続き仲村さんの植林地の説明の続きを掲載し、②2~3ページは現在の植林地の経緯と状況を掲載します。

以下、前号の続き。

①

ここでの主な植林樹種は、パイオニアプラント3種、ブナ科、サクラ類、カエデ類、カバノキ科など約50種。

ヤマハンノキが伸びて森の様な姿になってくると、鳥や動物、そして風が様々な種類の木の種子を運んでくれます。今現在その種子からの苗木が伸びて、遷移が確実に進んでいる事を見る事が出来ます。また、ウグイス等の小鳥類が営巣し、小型、大型を含めた10種類以上のほ乳類が確認され、豊かな生態系が少しずつできつつあります。

この森は、これから10年単位で全くその姿を変えて行くものと思われれます。30年後ぐらいには、ある程度ヤマハンノキの保護から抜け出せるような森になっていくのではないのでしょうか。全てうまく行っている訳ではありませんが、みんなで末永く見守っていただければ幸いです。

②

現在の植林地の経緯と状況

仲村 得喜秀

当会の森づくりは、1990年当時の国立南蔵王青少年野営場から始まっている。野営場はその後、全国植樹祭が行われ、当会の植林地の多くは、その中に組み込まれてしまった。わずかに残った3区域、4区域では、現在も5年毎に記録は取り続けている。野営場も現在地も施業法は、ほぼ同じである。野営場は裸地部や乾燥地が多かったので、ヤマハンノキ以外でもオオバヤシャブシ、アキグミといったパイオニアプラント(先駆性樹木)を用いている。1993年からが、本格的植林のスタートなので、2014年現在、21年たっている事になる。今現在、成長の記録は持っていないので詳しくは言えないが、ミズナラの植林地などは、ヤマハンノキという保護樹から卒業しようとしている姿を見る事ができます。

1998年、ナショナルトラスト スタート、1999年 NPO 法人認証、そして、2001年白石市と現在の共有地、約13ha を購入。現在作業小屋の周囲にある木は2001年の植林である。共有地での植林は2002年からである。2007年まで全体の植林を終わらせるというのが、白石市との取り決め事項であった。しかし、それは形式上の事で、実際には未植林地や植林不足地がまだ多く残っていた。そこで、昨年2013年までは、植林祭を行い、補植活動を行ってきた。植林前の共有地の状況は、そのほとんどが草地であった。原野としての草地と、草地と化した農地である。他には、かつてこの地がブナの原生林であった事をうかがわせるブナ自然林。林床にはカタクリ、シラネアオイ、スハマソウなどの、ブナ林に依存して生きてきた早春の草花が咲いている。また、開発後に何らかの理由で成立したアカマツ林とカラマツ林も残っている。共有地の周辺部は国有林があり、そのほとんどは、カラマツの植林地である。今年2014年からは、一部補植は続けながらも、枝打ち、間伐、蔓切りなどの育林作業を主とした活動に変わって行く事になる。2002年の初植林から現在までの状況は、ヤマハンノキもしくは、成長した植林地が地表面を覆っている場所がほとんどである。一部では、そうっていない場所もある。そういう所は、ハタネズミやノウサギの食害が大きかったのが主な原因と思われる。まだまだ保護樹であるヤマハンノキの力が必要であるが、ケースバイケースで枝打ちや間伐は行っていかなければならない。そして、特にブナ、ミズナラ、キハダ、ミズメ、ケヤキ、イタヤカエデなど100年以上生きられる樹種を伸ばしてやる施業を行って行く必要がある。また、成長の早い樹種とブナのように、遅い樹種を認識して行う施業も大切と思われる。具体的には、ヤマハンノキとその下の植林樹の関係である。どの時期にヤマハンノキを伐るのかという判断である。ちょっと難しく、私でも迷う事が多い。また、ヤマハンノキ以外は不条枝の多い木が多く、適度に樹形を整えるための枝切りも必要である。2股になった木は、将来的に割れる確立が高いので、早い段階で1本にしたほうが良いと思っている。100年以上生きる木のほとんどは耐陰性が強いので時間と共に、確実に伸びていってくれるものと思う。森の成長を阻害する樹病については、苗畑で発生した黄色胴枯病だけだと思う。この病気は、木を枯らす程のものではないという事なので、安心している。これから被害が心配されるのは、昆虫害である。コウモリガやハマキガ、マイマイガといった虫とカミキリムシの成虫の食害は、大量発生する可能性があるのも、恐れ存在である。昨年もシロスジカミキリとゴマダラカミキリによって、ブナの枝枯れが数十本の木で起きている。また、マイマイガの幼虫が、1本のブナの木の葉を全て食べ尽くすという被害も出ている。

作業小屋の近くでは、7m ぐらい伸びたコナラが突然死している。幹には、カミキリムシの食痕が多数と木くずが樹下に散らばっていた。何かミキリかは分からない。コナラ、ミズナラ、アオナラ、カシワでこの被害が多く見受けられる。どう対処したら良いかもよくわからない。カブトムシやクワガタの食痕と良く似ているのだが・・・？ 植生的に変化が起こったのは、かつて小さなマツとシバの草地だった場所に植林し、その後成長した事で、あれ程たくさん咲いていたセンブリがほとんど見られなくなった事である。オミナエシやツリガネニンジンもいずれはなくなるのだろうが、できれば一部草地は残したいものである。それから、植林地の内外にはチマキザサが多く繁茂している。これは、刈払いを止めるとすぐにはびこってくるので、やっかいな存在である。ササ対策の刈払いは、止めるわけにはいかない作業である。以上、細かい事も色々書いてきたが、現状は赤ちゃんでしかないとと思う。まだまだ手をかけて、一人前にしていかななくてはいけない状況である。私の中では、植林後30年ぐらいでヤマハンノキから独立してもらいたいというのが目標である。現在の植林地では、20年後という事になる。また他の森作りとして、針広混交林実験、彩遊の森も手がけている。サラサドウダンの多い場所もあり、そこは、花が咲くまでよけいな木は伸ばさないつもりでいる。遊びも入れ、山菜の栽培も行っていきたい。作業小屋の周りでもカタクリが咲いたら楽しいと思う。みんなでアイデアを出し合って、それを実現できるような作業もおもしろいと思う。